

# 夏



高知の夏といえば川遊び。

ジリジリ焼けつくような情熱的な太陽の日差し。四万十市江川崎の最高気温41度も忘れられません。セミ時雨と入道雲。アンケートに記入しながら、「まっこと蝉の声がうるそうてたまりません、なんとかできませんか」と言った方の困り顔が、妙に忘れられません。

さしなめて 童たのしも 夏氷 山口誓子(俳人)

モノサシ訳

暑い夏に子どもがスプーンを舐めながらおいしそうにかき氷を食べていて、そばで見てるんだけど本当に楽しそうだなあ



「二子ニ子」の初鳴き」「蝉しぐれ」「ツクツクホウシは夏の終わり」

「よきこい祭り」「神社の夏祭り」「花火大会」「お地藏様祭り」

「日差しが痛い」「日陰が心地よい」「エアコンなしでは耐えられない気温」

「枝豆」「露地物のキュウリ」「オクラやシシトウがおいしい」「冷やしトマト」

「スイカ」「ビワ」「イクリとヤマモモ」「メロン」

「青い田んぼ」「トンボ」「田んぼを渡る風」「稲刈り」

「夏雲のすごい迫力」「猛烈なスクールのような雨」「入道雲が派手に湧きはじめる」「夕立」

「あなたのキーワードは？」

「キョウチクトウの開花」「くちなしの花」

「満開のノウゼンカズラ」「彼岸花」「アジサイ」「センダンの花」

太陽がもたらす木影 兼松方彦

夏、県外に出かけて行くとよく「日焼けしているね」と言われる。私はそんなに戸外で過ごしているわけではないのだが、都会の人より少し日焼けしているようだ。高知風には「少しコゲタ」状態である。

高知の夏の日差しは非常にキツイ。「日に焼ける」「レベルではなくまさに「コゲル」という状態である。一方、木陰に入るとスーッと涼しい。日なたで「コゲル」せいか、日陰に入ると本当に涼しく感じるのだ。そよ風でも吹いていたなら、大げさではなく「はあ、助かったあ」と思える。

都会ではとてもこうはいかない。太陽だけでなく、さまざまな機械類が熱を発して、日陰にも熱風が吹きつけている。室内の冷房の効き過ぎた寒さと外気とのぼせるような暑さで体が参ってしまう。高知の夏は、この暑さと、お日様がもたらす快適な木陰こそが自然の宝物であると思う。枝を広げる美しい街路樹を、もっともつと増やして行こう。